

## 伊豆大島における地磁気全磁力変化

### Variation of Geomagnetic Total Intensity at Izu-Oshima Volcano

気象庁地磁気観測所

Kakioka Magnetic Observatory, JMA

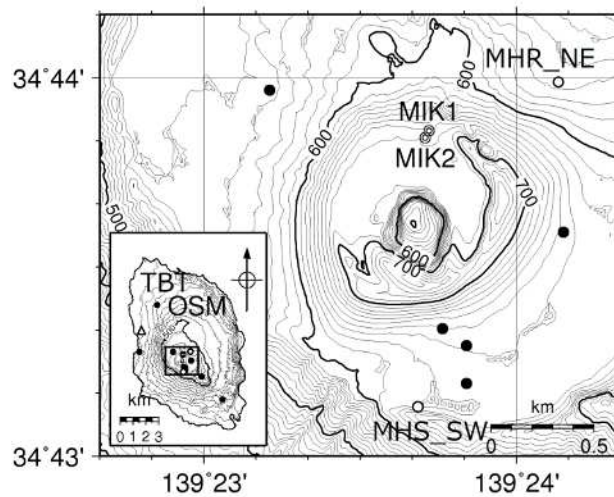
地磁気観測所では、2007年3月末から三原山火口北側の約40m離れた2点(三原北MIK1・MIK2)において地磁気全磁力連続観測を実施している。また気象庁地震火山部では、2013年3月末から元町津倍付(TBT)、三原山北東(MHR\_NE)、三原新山南西(MHS\_SW)で地磁気全磁力連続観測を実施している(第1図)。

2007年3月から2015年1月までの期間について、MIK1・MIK2およびMHR\_NE・MHS\_SWで得られた全磁力日平均値と、参照点として利用した大島基準点OSM(東京大学地震研究所:火口の北西約4.8km)の全磁力日平均値との差及び大島特別地域気象観測所の気温変化を第2図に示す。

MIK1、MIK2にはともに振幅20nT程度の年周変化が見られる。これらの年周変化は気温により補正を行うことで大まかに取り除くことができる(第3図)。

全磁力差(気温補正後)は2012年3月頃まで、MIK1で約3nT/年、MIK2で約6nT/年の増加傾向が継続していたが、2013年以降は横ばい傾向となっている。MHR\_NE、MHS\_SWについてもほぼ横ばい傾向である。また、両地点に数ヶ月程度の周期の不規則な変動が見られるが、変動の様子は異なっており、観測点近傍の局所的な影響によるものと考えられる。なお、数ヶ月程度の周期の不規則な変動は、両地点で逆センスの傾向がみられ、MIK1とMIK2の値を平均すると相殺できる場合がある(第3図の最下段)。

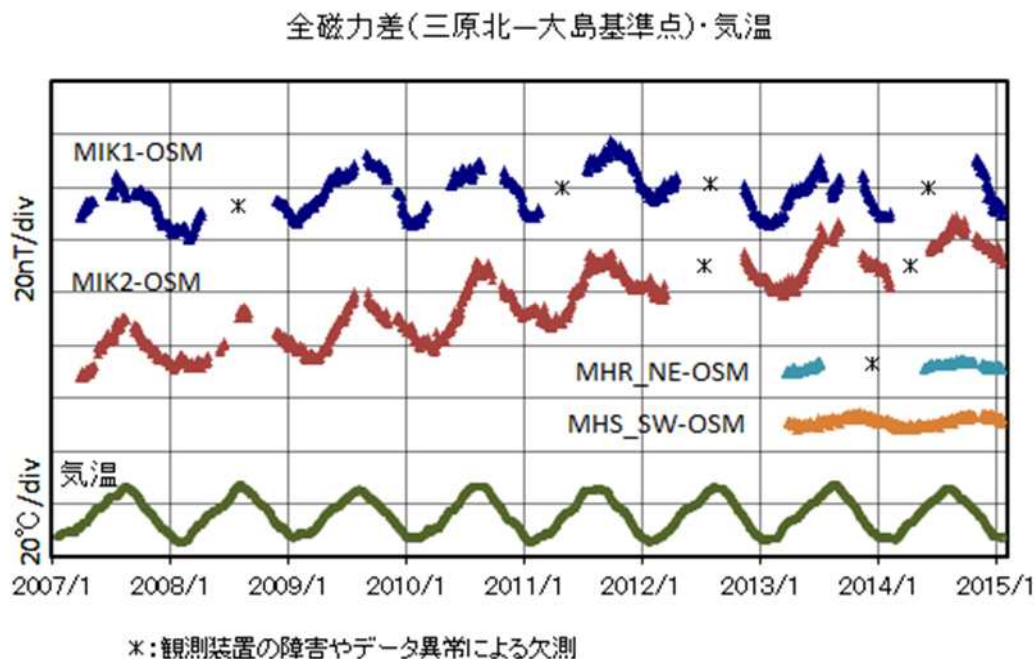
2014年2月から機器のトラブルにより欠測していたが、MIK2は2014年6月に、MIK1は2014年10月にそれぞれ観測を再開した。火山活動によると思われる特段の変化は認められない。



第 1 図 三原山火口付近と伊豆大島全域の全磁力観測点配置 (○：地磁気観測所連続観測点、●：気象庁地震火山部連続観測点、●：東京大学地震研究所連続観測点、○：大島特別地域気象観測所)

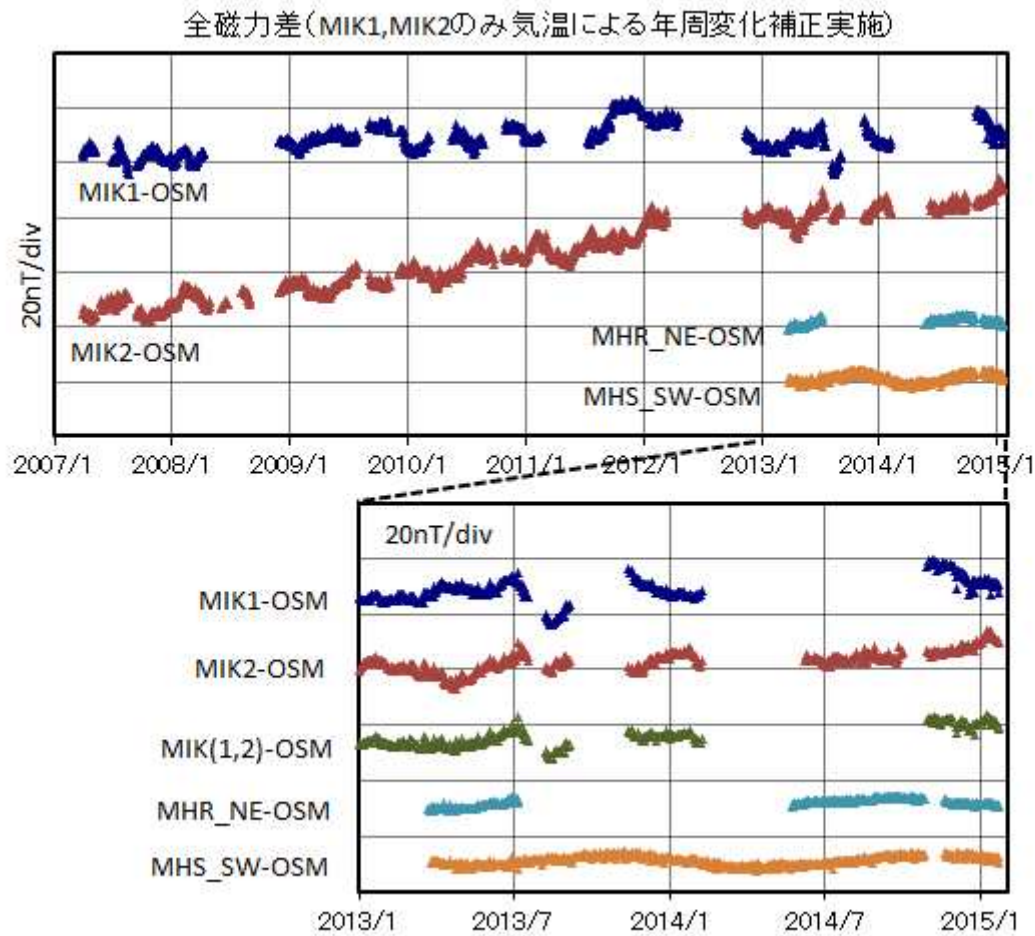
この地図の作成には、国土地理院発行の「数値地図10mメッシュ(火山標高)」を使用した。  
(承認番号 平23情使、第467号)

Fig.1 Location map of geomagnetic total intensity observation stations. Continuous observation stations by Kakioka Magnetic Observatory (○) and those by Earthquake Research Institute, the University of Tokyo (●), Japan Meteorological Agency (○) as well as Oshima weather station (○) are shown.



第 2 図 2007年3月から2015年1月までの連続観測点における全磁力日平均値と参照点OSMの日平均値との差および気温(大島特別地域気象観測所の気温データの30日移動平均値)

Fig.2 Daily mean values of the geomagnetic total intensities at the stations MIK1, MIK2, MHR\_NE and MHS\_SW with reference to the station OSM and the air temperature at Oshima weather station from March 2007 to January 2015. The air temperature is moving average of 30 days.



第3図 気温補正後の全磁力日平均値差（上図：期間2007年3月～2015年1月、下図：期間2013年1月～2015年1月、下図緑色：MIK1とMIK2の平均値）

Fig.3 Daily mean values of the geomagnetic total intensities at MIK1 and MIK2 with reference to OSM calibrated by the air temperature and at MHR\_NE and MHS\_SW with reference to OSM from March 2007 to January 2015(top), and from January 2013 to January 2015(bottom). The mean of daily mean difference at MIK1 and MIK2 (green line) is shown in the bottom panel.